医療法人　大和会　医療・介護・福祉連携だより

いなふくみ

2020 夏
vol.14

西毛病院歯科の紹介

西毛病院　歯科医師　瓜田　眞久

西毛病院歯科は、入院患者様の歯科診療を近医にお願いしていた状況の改善および負担軽減を目的とし、効率的かつ優先的に歯科受診できる環境を整えるため平成２年に発足しました。その後一般外来や施設利用の方々が受診できるようになり現在に至っています。

現在は一般外来診察が中心で入院患者様は曜日を決めて診療しています。

入院患者様、利用者様に対しては、病棟のスタッフや歯科衛生士と連携し口腔内の緊急事態の対処や不測の事態の予防を目的とした処置を行っています。必要に応じて病棟へ伺い診断および処置をしています。

歯科は非常勤歯科医師２名、常勤歯科衛生士２名、受付１名の通常４人体制で運営しています。新型コロナ禍の下、歯科診療は100％濃厚接触のため緊急性の高い方を中心に密を避け業務をこなしています。

診療室は昔ながらの和気あいあいとした雰囲気のなか患者様とスタッフが密にコミュニケーションをとっています。遠方からお越しいただく方もおり、スタッフが連携し患者様一人ひとりの立場に立った治療を心掛けています。

生命維持のための食物の消化の入り口は咀嚼（そしゃく）です。口腔疾患の的確な予防と処置および指導により個々に適した良い咀嚼を可能にするお手伝いをしています。難症例は富岡総合病院を紹介させていただく場合もあります。

受診される患者様との信頼を築く事で良い成果を得られると実感しているスタッフが控えています。お気軽にご相談ください。今春新調しましたユニット（診療台）とともにお待ちしております。

今回のトピック

摂食嚥下リハビリテーション

嚥下障害とは

嚥下障害（えんげしょうがい）とは、私たち健常者が何気なく行っている「食べる」という行動、食べ物を認識し、口腔内に取り込み、噛み（咀嚼）、飲み込み（嚥下）、胃まで送り込む過程のどこかで問題が生じることです。

原因として最も多いのは、脳梗塞、脳出血、頭部外傷などの脳血管疾患です。脳には摂食嚥下という運動を司っている神経の中枢が存在するためです。その他の疾患として、パーキンソン病などの神経筋疾患、周術期絶食の影響、拒食症、うつ病、認知症などの心理的原因があります。

さらに、お年寄りが食事中によくむせることでもわかるように、高齢になると、注意力、集中力の低下、歯の欠損や入れ歯による咀嚼力の低下、唾液量の減少、飲み込みに関する筋力の低下、免疫力の低下などにより嚥下障害、誤嚥性肺炎を起こしやすくなります。

嚥下障害の改善にはリハビリテーションが効果的です

まずは嚥下機能の状態を確認するために口腔内や全身状態の観察や検査などを行います。嚥下障害のリハビリテーションでは、食べ物を使わない基礎訓練（間接訓練）、口腔ケア、嚥下体操、頭部挙上訓練、嚥下訓練といった、舌や口、喉など嚥下に必要な器官のマッサージやトレーニングなどを行います。また、食べ物を使った摂食訓練（直接訓練）では、咀嚼のいらない水分やゼリーなどから始め、段階的に通常の食事に近づけていきます。患者の状態や体調に合わせながら組み合わせて行っていきます。

当院では患者様、利用者様の誤嚥性肺炎の発症予防や、より普通食に近い形態の食物を口から摂取し、安全で楽しくおいしい食事のため、多職種で連携して摂食嚥下リハビリテーションに取り組んでいます。

歯科衛生士による口腔ケアの実施

当院のリハビリテーション課には３名の歯科衛生士が在籍しています。内科病棟・介護医療院にて、口腔内環境の継続的な管理が必要な方に対して介入を行い、口腔ケアや治療の必要性の有無の確認、ならびに治療時の外来歯科との連携を取るなど重要な役割を担っています。口腔ケアを歯科衛生士が対応することにより、専門的な口腔ケアの実施・継続介入が行え、誤嚥や誤嚥性肺炎予防に繋がっています。

また、病棟スタッフから「口腔ケアの専門職である歯科衛生士から具体的な口腔ケアの対応を教えてもらい勉強になった」等の好評も得ています。今後もより良い医療・介護を提供していく為には、歯科衛生士の存在は必要不可欠であり、今後の活躍が期待されています。

大和会スタッフ紹介

言語聴覚士 かなざわ かずき
金澤 和希 さん

「言語聴覚士」とは

言語聴覚士は病気や加齢、生まれつきの障害などによって、会話や発声、食事などがうまく出来ない人に対し、必要な指導、アドバイス、訓練を行う専門職です。

活躍の場は主に医療機関や福祉施設ですが、近年では教育の現場にも活動の場を広げています。高齢化が問題となっている昨今、脳疾患や心臓疾患によって引き起こされる失語症や、嚥下障害などの患者様が増えてきています。こうした患者様に対して言語聴覚士が医師や看護師、作業療法士、理学療法士などと連携し問題改善のため支援を行っています。

リハビリを提供することに、やりがいを感じ、根気強く行っています。

この仕事を知ったきっかけ

以前から医療・介護の分野に興味があり、進路を決める際に様々な専門職を調べ、「話す」「聴く」「食べる」事を中心にリハビリを提供する言語聴覚士という資格を知り興味を持ちました。県内の専門学校へ入学し、言語聴覚士について学び、実習を通して今まで当たり前に出来ていたコミュニケーションや食べることが障害によって出来なくなった時の大変さを感じました。患者様の障害に合わせ、充実した生活が行えるよう個々にあったリハビリを提供している姿を見て、言語聴覚士になるという目標が明確になりました。

西毛病院への入職前は総合病院に勤務をしており、急性期から在宅までのリハビリを行う中で、個別性が高く臨床像が様々な患者様と関わる機会がありました。その中でも、生活期におけるQOLの向上が大切だと考えていました。機能障害だけでなく、包括的なアプローチを行い、生活を想定したリハビリを提供してきました。そうすることで、患者様の身体的・精神的なケアに繋がり、臨床を通して経験したことは自分の強みとなっています。

入職前の見学の際に、「西毛病院での言語聴覚士の役割は、嚥下障害に対するリハビリが主」と聞きました。口から食べることはQOL向上に直結している部分だと感じ、生活期におけるQOL向上に関わりたいと思い、当院を選びました。また様々な職種のスタッフが連携を図り一業務にあたれることも当院の特色だと感じております。チームアプローチを行い、患者様一人ひとりに合ったリハビリを提供することにやりがいを感じながら、日々の業務にあたっています。

仕事についての「想い」

現在は介護医療院と内科病棟を担当しています。リハビリ内容としては、摂食嚥下機能障害をもつ方のリハビリが主です。口腔衛生、口腔器官の運動や、発声練習などの言語表出練習、安定して食べられる食形態の選択や姿勢、食具の選択を行っています。気持ちを伝えられない患者様が多く、相手の考えを読み取る努力や、患者様の障害を理解し、その人にあった解決法を見つけてリハビリを提供出来る様に考えています。そのためには患者様の言動や様子の細かい変化にも気づけるように意識しています。またリハビリは一度やればすぐに成果が出るものではなく週単位、月単位、年単位で経過を見ていくこともあり、根気強く行っています。

毎日コツコツ続けることが大切

健口体操（パタカラ体操）

食べ物を上手にのどの奥まで運ぶ一連の動作を鍛えるための、発音による運動です。 加齢に伴い筋肉が弱ってくると、口の周りの筋肉や舌の動きが悪くなります。 その予防・改善が目的です。「パ」「タ」「カ」「ラ」と発音することで、食べるために必要な筋肉をトレーニングします。大事なのは“できるだけ大きく口を動かすこと”と“毎日継続すること”です。

なぜパタカラがいいの？

パ　唇をしっかり閉じることで出る音です。
唇の閉じる力を鍛えることで、食べ物をこぼさないよう口を閉じて飲み込むことができるようになります。

タ　舌先の前方が口の上側に触れて出る音です。
舌を前に押し出す力を鍛えることで、食べ物をしっかり押しつぶしたり、口の奥に運ぶことができます。

カ　舌をのどの奥に引いて出る音です。
舌を後方へ引く力を鍛えることで、舌の根を使いのどの奥に運ばれた食べ物を、さらに食道へ運ぶことができます。

ラ　舌が上あごについて離れる時に出る音です。
舌の上方への動きを鍛えることで、舌を使って「ゴックン」と飲み込むことができるようになります。

歯科診療のご案内

一般外来をはじめ入院患者様の治療にも携わっております。地域の皆様のニーズに答えられるようスタッフ一同日々努めておりますので口腔内に不安をお持ちの方は一度ご相談下さい。

■診療のご案内　（予約制）

平日（月～金曜日）

午前　受付　10：00～12：30　　午後　受付　14：00～17：30

診療　10：00～13：00　　診察　14：00～18：00

※　土曜日・日曜日・祝日・お盆・年末年始　は休診になります。

■お問い合わせ（歯科直通）

TEL：　0274-64-4446

編集後記

今年も早半年。本来なら東京オリンピック・パラリンピックの話題で一色だったと思いますが、実際には話題はコロナウィルスのことばかり。異例づくしの 2020 年。無事に年を越せればと今から願ってしまいます。

ご質問・ご相談など、お気軽にお問い合わせください。
医療法人　大和会
〒 370-2455　群馬県富岡市神農原 559-1　TEL　0274-62-3156
URL　http://www.seimou.org/
令和 2 年 6 月 25 日　発行：医療法人　大和会　編集：広報活動委員会